

近現代美術に関する総合的研究(美 02-06-1/5)

目 的

多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第一にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第二に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

1. 未公開資料の収集整理とデータ化にむけた調査研究

本年度は、下記の3件の調査研究を行った。第一に、黒田清輝の著述文献の再検証を目的に、平成13年度より継続して収集調査してきたが、これにより既刊の著述集『絵画の将来』(中央公論美術出版、昭和58年)に未収録の著述を集成した『黒田清輝著述集』を報告書として刊行することを目的とする。第二に平成18年2月に黒田清輝夫人である黒田照子の御遺族である金子家から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料をデータ化し、保存公開にむけた準備をすすめることを目的とする。第三に、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料のうち、平成17年度に報告書『現代美術資料センター寄贈資料目録 画廊関連データ』(CD-ROM)につづく研究として、作家別資料の整理作業に着手することを目的とする。

2. 資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

本年度は、平成17年度に刊行した報告書『昭和期美術展覧会出品目録』の成果をふまえて、これにもとづく研究論文集『昭和期美術展覧会の研究』(仮称)の準備作業に入り、あわせて他機関の研究者の参加を仰ぎ、その問題点等を積極的に協議することを目的とする。また、近現代美術に関する個々のテーマに基づいた研究成果を積極的に公開することを目的とする。

成 果

上記の第一項にあげた研究については、第1にあげた黒田の著述約150編を編年的に編集収録した『黒田清輝著述集』を刊行することができた。第二に黒田清輝関係写真等208件を整理し、保存公開を目的とした基礎データ化することができた。第三に、作家別資料についてはファイリング作業を継続し、あわせて保存公開のための基礎データを入力することに着手できた。

つぎに第二項にあげた研究については、2006(平成18)年9月28日に当研究所において下記の研究者の参加を仰ぎ、研究協議会を開催することができた。大谷省吾(東京国立近代美術館)、河田明久(早稲田大学)、田中修二(大分大学)、藤井素彦(高岡市美術館)、森登(中央公論美術出版)、柴田卓(キュリオ・エディターズ・スタジオ)、田中淳、山梨絵美子、塩谷純(以上、東京文化財研究所)

本研究協議会では、平成20年度の刊行を予定している『昭和期美術展覧会の研究』(仮称)につき、具体的に構成、内容、執筆者にわたり意見交換をすることができた。この実績をふまえて、次年度も研究協議会を開催する予定である。

論文等掲載数 3件

- ・田中淳「絵画の重さについて 『場からの創出』という問題のための断章」 『佐川晃司展 場からの創出』展図録 豊田市美術館 06.8
- ・田中淳「後期印象派・考 1912年前後を中心に(下)」 『美術研究』390号 pp.1-30 07.1
- ・塩谷純「団十郎の“腹芸”、雅邦の“心持”」 河野元昭先生退官記念論文集編集委員会『美術史家、大いに笑う 河野元昭先生のための日本美術史論集』 pp.367-386 ブリュック 06.4

研究組織

田中淳、塩谷純、小林未央子(以上、美術部)、山梨絵美子(企画情報部)、青木茂(客員研究員)